

嶋満神社便り

平成三十年十月号(第二十七号)
発行 嶋満神社奉賛会

本年度の例祭無事終了

今年も嶋満神社の例祭が去る八月十九日(日)、吉坂の岩室稻荷社、森本宮司様の手により厳かに執り行われ、無事終了いたしました。

前日からの準備、当日の参拝者へのお接待と、奉賛会員の方には大変ご苦勞様でした。またたくさんのお供えもいただき、ありがとうございます。

今年も昨年より実施の「おみくじ入り福餅の授与」をさせていただきます、好評でした。

ただ引換券発行枚数に対し、実際のご参拝、引き換えが七割弱で少し寂しい感があり、来年は引き換え方法などを少し考えてみたいと思っております。来年もご協力をよろしくお願いいたします。

越前金ヶ崎宮



前号に引き続き、敦賀市にある神社をご紹介します。前号に引き続き、敦賀港近くの「金ヶ崎宮」です。

「金ヶ崎」と言えば歴史好き、特に戦国時代をお好きの方はピンと来る方も多いはず。そう、織田信長が命からがら京都へ逃げ帰った「金ヶ崎の退き口(かねがさきののきぐち)」で有名ですね。

また古くは南北朝、太平記の時代にも新田義貞と足利尊氏の戦いもあったところ。す。

境内地の大部分がこの戦いの中心であった金ヶ崎城の旧跡で、国の史跡にも指定されていると、HPには記されています。

神社への登り口、駐車場付近には港へと続く旧敦賀港線の線路や踏切跡、鉄道用ランプ小屋が残されていて、なかなかいいムードを醸し出しています。

さて本殿は駐車場から石段を上がってすぐのところ、本丸址は金ヶ崎の最高点、見晴らしのいい場所です。昔は三方を海に囲まれた要害の地でしたが、今は周りが埋め立てられて陸地となっています。

この神社の創建は明治になってからで、祭神は後醍醐天皇の御子、尊良親王(たかながしんのう)、恒良親王(つねながしんのう)。地元の人々の熱烈なる請願により勅使をお迎えして創建された旧官幣社だけあって、拝殿の幕には菊の御紋がドーンと染め抜かれています。



金ヶ崎宮

そのご神徳ですが、毎年ここで行われる「花換えまつり」や尊良親王の恋愛譚などから、「恋の宮」と呼ばれ、恋愛成就のお宮さんとして知られています。また一方、信長が「袋のネズミ」となった撤退戦で奇跡の生還をしたことから「難関突破」の守り神としても有名です。

この金ヶ崎宮のある金ヶ崎城址は、隣の手筒山城址(てづつやまじょうし)と尾根伝いにつながっており、一体となった堅固な山城であったことが実感できます。宮司さんのお話によるとこの辺りの山は麓にセメント工場があるように石灰岩質で水を多く含み、井戸も掘りやすく籠城にも耐えられたそうです。

地元で直にお話を聞けるのもバーチャルと違ってリアルな旅の楽しみですね。



手筒山から敦賀港、気比の松原を望む

これからも折に触れて嶋満神社に関するある(？)神社をご紹介します。ありがとうございます。